平成21年度 決算報告

市広報やぶ10月号で「平成21年度決算報告」を掲載しておりましたが、歳入・歳出の円グラフに誤りがありました。

つきましては、「平成21年度決算報告」を再度掲載し、訂正してお詫びいたします。

一般会計決算

平成21年度の歳入合計は、217億2,442万円、歳出合計は209億817万円となり、平成20年度に比べ、歳入で14億2,969万円の増額（7.0%の増）、歳出で13億3,449万円の増額（6.8%の増）となり、差引き8億1,625万円の黒字決算となり、5億円を基金に積み立て、残りの3億1,625万円は平成22年度に繰り越しました。

歳入

市税歳入は、1億8,328万円の減

市の財政力に応じて国から交付される「地方交付税」、借金である「市債」など「依存財源」が75.0%を占めており、非常に足腰の弱い財政構造となっています。

皆さんから納めていただいた市税は、26億2,060万円で歳入全体の12.1%を占めています。平成20年度に比べ、1億8,328万円の減額（6.5%の減）となっています。

また、国の経済対策や定額給付金などの大型事業のため「国庫支出金」は、17億3,521万円の増額（189.7%の増）となりました。

歳出

トップは借入金返済のための「公債費」

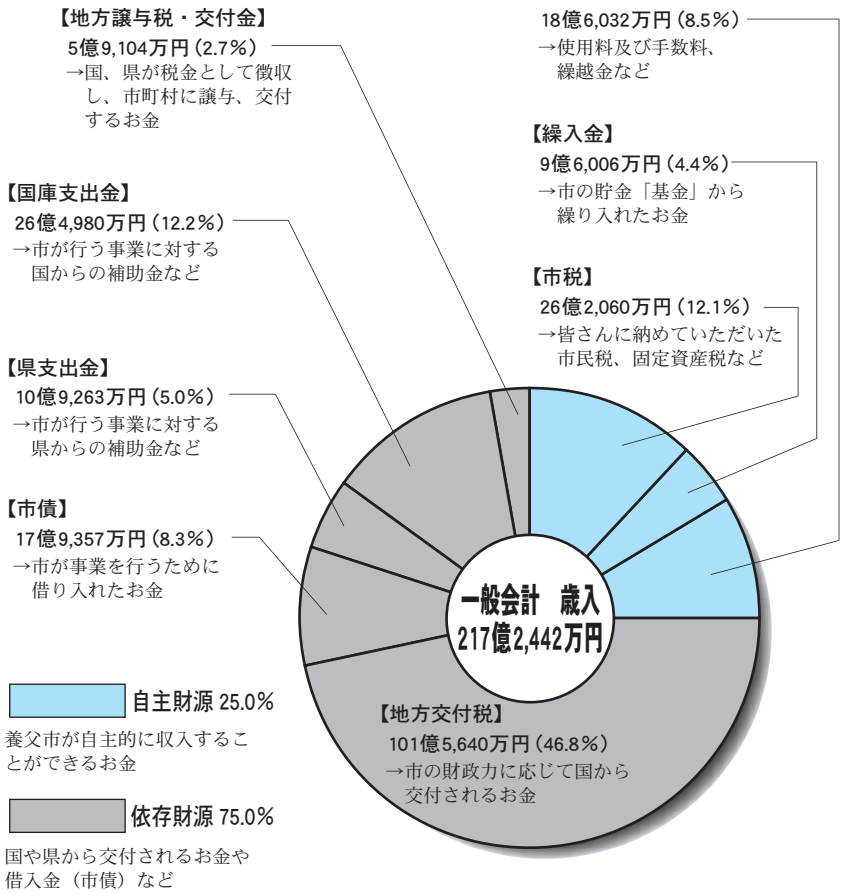
過去の借入金の返済金である「公債費」が全体の22.4%を占めて最も多くなっています。この中には、後年度の公債費負担を少しでも軽減させ、財政の健全化を図るために実施した8億7,332万円の繰上償還（返済期限のきていない借金を任意で返済すること）も含んでいます。

次いで、福祉医療、児童・障害者・高齢者福祉などの経費である「民生費」、小・中学校の学校教育や公民館等、社会教育などの経費である「教育費」となっています。教育費は昨年に比べ10億6,048万円増額（59.1%の増）となっていますが、これは、八鹿青渓中学校の建設や市内小中学校の耐震診断や耐震化工事によるものです。

特別会計決算

特別会計は、一般会計とは別に経理を行う会計のことです。養父市では国民健康保険特別会計、介護保険特別会計、簡易水道事業特別会計、下水道事業特別会計など8会計を設置しています。平成21年度は、全て

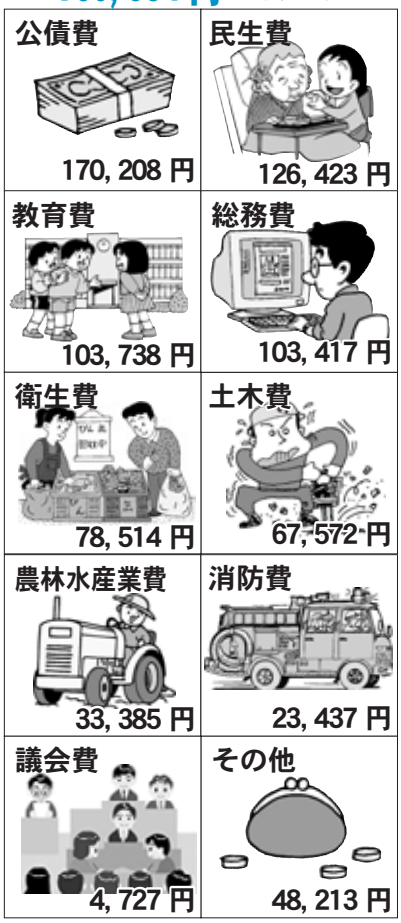
歳入総額 217億2,442万円



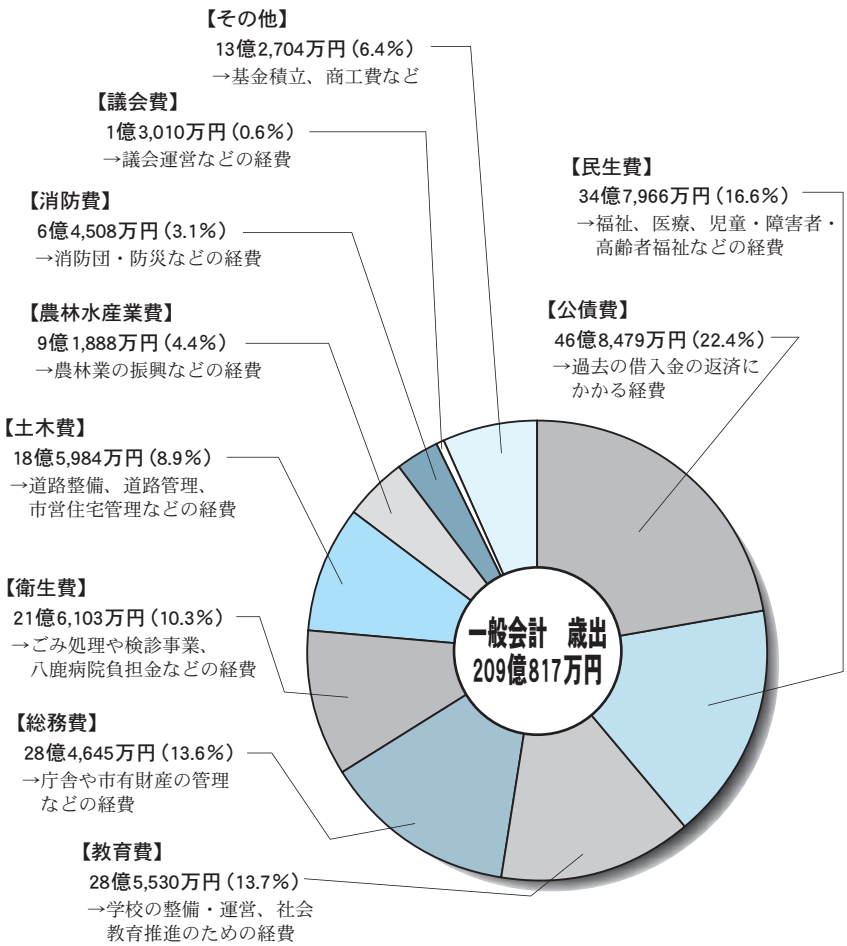
市民１人あたりに使ったお金

759,634円

※平成21年度末人口で計算（27,524人）



歳出総額 209億817万円



★会計別決算額

			歳　入	歳　出	差し引き
一般会計			217億2,442万円	209億817万円	8億1,625万円
特別会計	国民健康保険	事業勘定	28億6,506万円	27億8,982万円	7,524万円
		建屋診療所施設勘定	5,101万円	5,101万円	0万円
		大屋診療所施設勘定	1億2,808万円	1億2,808万円	0万円
		大屋歯科診療所施設勘定	4,119万円	4,119万円	0万円
		出合診療所施設勘定	9,921万円	9,921万円	0万円
		大谷診療所施設勘定	1億1,618万円	9,560万円	2,058万円
	養父歯科診療所		5,151万円	5,151万円	0万円
	老人保健		2,168万円	2,146万円	22万円
	後期高齢者医療		3億5,100万円	3億5,088万円	12万円
	介護保険		31億7,037万円	31億5,353万円	1,684万円
	住宅新築資金等貸付事業		8,531万円	8,531万円	0万円
	簡易水道事業		13億9,673万円	13億9,605万円	68万円
	下水道事業		17億8,396万円	17億8,148万円	248万円
	計（特別会計）		101億6,129万円	100億4,513万円	11,616万円
			収　入	**支　出**	**差し引き**
企業会計	水道事業	収益的収支	2億1,573万円	2億2,029万円	▲456万円
		資本的収支	1億4,200万円	2億6,582万円	▲1億2,382万円
	氷ノ山国際スキー場事業	収益的収支	6,389万円	1億74万円	▲3,685万円
		資本的収支	4,007万円	4,416万円	▲409万円
	農業共済事業	収益的収支	1億4,394万円	1億4,138万円	256万円
	計（企業会計）		6億563万円	7億7,239万円	▲1億6,676万円

の特別会計に一般会計からの繰出金を支出（大谷診療所施設勘定を除く）して、黒字決算としています。

企業会計決算

企業会計は、独立採算制を原則とし、企業的特徴の強い事業を行う場合に設置する特別会計のことです。

養父市では、水道事業、氷ノ山国際スキー場事業、農業共済事業の３企業会計を設けています。平成21年度は、農業共済事業は黒字決算となりましたが、水道事業は、八鹿ダムの建設仮勘定1,066万円を特別損失処理したため赤字決算となり、氷ノ山国際スキー場事業も雪不足等により、赤字決算となりました。